

# 令和5年度 第1回横浜市創造界限形成推進委員会

## 次 第

日 時：令和5年7月26日（水）

10時00分～12時00分

場 所：17階共用会議室S01

### 議題

#### 1 審議事項

- (1) 令和4年度事業評価について
- (2) 旧第一銀行横浜支店の運営団体公募について

#### 2 その他

### 資料

- ① 次第
- ② [資料1] 委員名簿
- ③ [資料2] 前回議事録（令和5年3月8日開催分）
- ④ [資料3] 令和4年度事業評価シート
- ⑤ [資料4] 旧第一銀行横浜支店の運営団体公募について

## 委員名簿

	氏名	所属団体(役職名)		出欠
委員長	野原 卓	横浜国立大学大学院	准教授	○
副委員長	六川 勝仁	馬車道商店街協同組合	理事長	○
	遠藤 新	工学院大学建築学部	教授	○
	岡本 純子	公益財団法人セゾン文化財団	プログラム・オフィサー	○
	菅野 幸子	アーツ・プランナー／リサーチャー		○
	治田 友香	関内イノベーションイニシアティブ(株)	代表取締役社長	○
	日沼 禎子	女子美術大学 芸術学部	教授	○
	簗谷 則美	(株)ミノヤアソシエイツ	代表取締役	○
	山口 真樹子	国際文化交流・コミュニケーション		○

令和4年度第2回横浜市創造界限形成推進委員会会議録	
日 時	令和5年3月8日(水) 10時00分～12時15分
開催場所	市庁舎18階共用会議室みなと6・7
出席者	野原委員長、六川副委員長、遠藤委員、岡本委員、菅野委員、治田委員、日沼委員、 簗谷委員、山口委員
欠席者	なし
オブザーバー	恵良氏、加藤氏、山野氏、細淵氏、矢野氏、岡田氏
開催形態	一部非公開
議 題	1 審議事項 (1) 令和4年度事業進捗・仮評価及び令和5年度事業計画について (2) 旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について 2 その他
決定事項	
	<p>事務局</p> <p>【開会】</p> <p>○令和4年度第2回横浜市創造界限形成推進委員会を開催する。</p> <p>【資料の確認】</p> <p>○配付資料の確認が行われた。</p> <p>【定足数の確認】</p> <p>○委員9名中9名が出席しており、委員会の成立となる。</p> <p>【会議の公開・非公開】</p> <p>○本会議は横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条により原則公開となるが、審議事項(2)については、同条例第7条第2項に基づき非公開とすることについて了承。</p> <p><b>審議事項(1)：令和4年度事業進捗・仮評価及び令和5年度事業計画について</b></p> <p>【各拠点ディレクターによる説明】</p> <p>細淵氏 ○BankART1929は、前代表が急逝した時点で既に今年度の事業計画は立てられていたため、それを基に新しい企画も交えつつ、様々なご協力を頂きながら運営を無事に継続することができた。コロナ禍の影響でカフェパブ事業、スクール事業など展開できていなかったものも、今年度は徐々にそれを再開することができた。Stationでは、キング軸を使ったアートテーブルなどの新しい企画で、周辺の企業や住民の方々とのネットワークづくりを具体的に始めることができた。また、広域展開を具体的にしていくには時間がかかるため、長期計画に切り替えて少しずつ進めていきたい。</p>

	<p>○BankART1929 は 2024 年で 20 周年を迎えることとなる。再構築を視野に入れて、トリエンナーレや大規模アートフェアなど周辺で開催される大きなイベントや他の創造界隈拠点、近隣の機関とも積極的に関わりながら展開していきたい。引き続き Station と KAIKO の 2 つの拠点を中心に、主催、コーディネート、スタジオ、カフェ、パブ、ショップコンテンツなど、基本的な事業を柱に、マイナーチェンジが必要な部分を少しずつ見直ししながら、継続展開していく</p>
加藤氏	<p>○急な坂スタジオは、利用が戻りつつあるが、これは昨年度、一昨年度に公演がかなわなかったものの延期公演やリベンジ公演が多かったので、来年度以降に関しては少し利用が落ち着いてしまう懸念がある。ヨルノヨの関連企画として野外のツアーパフォーマンスや、YPAM の時期に急な坂スタジオ全館を利用したショーケースを行った。ショーケースでは、スタジオの中の部屋を移動していただきながら、4 つの作品をご覧いただいた。今年度は世代交代をテーマにしており、ショーケースに関しては 30 歳以下のアーティスト限定で声がけした。これからもう一つ下の世代の育成にさらに力を入れていくということを表明する企画になった。</p> <p>○来年度の計画に関しては、ディレクター交代の準備を進め、再来年度に正式に交代する。また、1 年間かけて新しいサポートアーティストを公募し、決定のアナウンスをしたい。これに関しても、意識的に一世代、二世代若い人たちと一緒に作業していきたい。また、これまで 16 年間の事業のアーカイブも時間をかけて残していきたい。</p>
山野氏	<p>○黄金町では、分科会の評価で、事業数が多くて関連性がよく分からないという意見もあり、今年度は大きな事業は控えて日常的な活動に主に取り組んだ。特徴的だったのは、レジデンスのアーティストの数が数年ぶりに増加したこと。海外からの応募が非常に多く、約 50 人のレジデンスアーティストのうちの 10 人ぐらいが海外からで、順番待ちの状況。また、海外に黄金町のアーティストを派遣する事業も今年度から復活した。事業数が多いのではないかという評価があるが、地域の事業のサポートがかなりの部分を占めていることがずっと続いていた。それを、地域の方がより主体的に関わっていただけるような体制に組み替えていきたい。</p> <p>○今後の計画は、アーティストが増え続けている一方で、活動場所が増えていないということがあり、施設の改修を進めている。海外とのネットワークは、交流団体を増やし、リアルな交流を今後やっていきたい。また、アーティストと地域の皆さんが顔を合わせる機会が（コロナの影響で）3 年間ほとんどなかったが、そういう機会をもっと持たなければいけない。</p>
岡田氏	<p>○象の鼻テラスでは、ネクストノーマルを掲げながら、今までの事業をコロナ禍にうまく合わせて、それを乗り越え次に向かって歩むとい</p>

うことをテーマに取り組んだ。フューチャースケープでは、初めてヨルノヨと連携し、水際線を光の帯でつなぐということで参画した。天候がよかったこともあり、久しぶりに1日7,000人を超える動員が得られた。象の鼻テラスはアートやクリエイティブを楽しんでいただくだけではなく、市民・観光客、いろいろな方々に体験を通じて文化や横浜を知っていただくというミッションがあるので、ここにきてようやく回復の兆しが見られるなか、来年度どうしていくか検討している。

○来年度の事業計画は、テーマを「深化するクリエイティブ・シチズン 多様な市民による主体的な表現活動の集積」として、非接触型の参加体験プログラムの拡充などを図りながら、いろいろな経験を提供できるようなプログラムを継続的に実施していきたい。海外との交流事業も新しい交流のスタイルを試行しながら実施していきたい。来年度については夏に大規模アートフェア、年度末には横浜トリエンナーレがあり、クリエイティブシティ・ヨコハマが20周年を迎えるので、他の創造界隈拠点との連携を深めながら、より横浜のクリエイティブな活動を、国内だけではなく世界にも改めて発信するような機会を設けつつ、旺盛に取り組んでいきたい。

矢野氏

○THE BAYS では、コロナ禍に入ってコワーキングスペースの需要がかなり増えていたが、出勤などが戻ってきて会員利用の需要は少し落ち始めている。その代わりとして、ビジネススクールの会員の方にスペースを使っていただくなど、スペースの最大限の活用に向けて工夫ができたと思っている。また、Next Ballpark Meeting では、市民の方やベイスターズのファンの方と我々球団職員でオープンミーティングをして、「横浜スタジアムを会議室やリモートスペースとして使いたい」という意見をワーキングハムスタという名前で実施することができた。ワーキングハムスタを使った後にTHE BAYSに来ていただける割引システムなどをつくり、THE BAYSの認知度も上がった。分科会では、民間企業のノウハウで戦略的に事業を実施できていると評価いただいた一方で、単独の取組に見えるというご意見もいただいたので、来年度は全体の目標に対する位置づけをしっかりと意識して実施していきたい。

○来年の計画は、3つの目的の軸に沿って事業を実施していきたい。軸1つ目は「人材集約・育成のきっかけ作り」で、引き続きビジネススクールと子供向けのアカデミーを実施していきたい。軸2つ目は「横浜のまちに滲み出していく」ということで、試合日と非試合日における観光ツアーの充実を図っていきたい。軸3つ目は「横浜・ベイスターズとしての価値向上」として、ワーキングハムスタや、Next Ballpark Meetingを継続的に実施して、一般の方からの意見もしっかりと反映できるような取組をしていきたい。また、1階に入ってい

		<p>る+B、&amp; 9の運営によって、都心部のにぎわい創出、エリア価値向上に努めたい。</p> <p><b>【各分科会の議長から説明】</b></p> <p>○BankART1929の分科会では、大きく3つのことに関心を持っていた。まず、代表交代に伴う組織運営。スタッフ体制の強化は、それぞれの専門性やネットワークを活用できるようにしているという話だった。より組織的な運営体制に転換することで安定感を増し、クリエイティブ性のアップも狙えるような柔軟な運営体制を確立しようとしている点を高く評価している。2つ目は経済的自立で、新たに Pop-up Store という販売事業にチャレンジし、新しいファンの開拓、収益性の向上の可能性を感じた。3つ目は、団体から、今後、コーディネート事業のニーズの減少、紙媒体の衰退による広報環境の変化があると話があり、SNSでの発信強化などの新たな取組など、時代の変化を察知し試行錯誤していることも高く評価している。最後に、評価軸に「事業の新機軸」という言葉があるが、それはBankARTらしさを磨いてほしいというエールのようなもので、BankARTらしさとは先端性を持っている活動というイメージである。アートの中でも、とりわけ現代アートは社会のありようと密接に関係していると思う。若い人たちをいつも惹きつけていくような刺激や魅力を持つていくことが必要なのだろう。時代を先取りするような感覚で、BankARTらしさを際立たせていっていただきたい。</p> <p>○急な坂スタジオでずっと課題としてきた広報について、「創造都市横浜」でのインタビュー掲載、朝日新聞の「感歎劇」への寄稿があった。急な坂の存在や活動とその意義を広く知ってもらい、創造都市の中で行われていることが広まるという意味でもとても有意義だったと高く評価している。急な坂は、今回新しいディレクターを育成することを表明した。新しいディレクターをどう育てていくのか、何を担ってもらうのか。現ディレクターのコピーではなく、新しい世代なりの方向性や取組をしてほしい。同時に、サポートアーティストの世代交代をすることも、画期的というか攻めた方針であり、分科会としては全面的に応援したい。来年度に関しては貸し方を少し変える、あるいは稽古は急な坂で行い、発表はSTスポットでやる等、横浜のいろいろな文化資源を使って展開していくことも考えている。稽古場を安全に運営していくことを、日々の工夫やアイデアを重ねて行っている一方で、新しいアーティストのサポートや、成果を着実に出しているということを、高く評価している。</p> <p>○黄金町では、アーティスト・イン・レジデンスが活発にリスタートしたことは非常に大きなことだったと思う。全体の運営では、近年はスタッフ体制が厳しい状況だったが、新規雇用もあり安定した運営ができるようになってきている。これから事業展開していくにあたって、業務</p>
叢谷委員		
山口委員		
日沼委員		

	<p>量のバランスや働き方など、次世代に向けてどんな運営をしていけるのかは大きな課題になると思っている。レジデンス拡充による収益と業務量の増加を、どうバランスをとって運営していくのかは、委員の方からも心配な課題であるという指摘があった。新たな企業との展開や鉄道会社との事業連携をこれからも発展させていけるのではないかと期待している。また、各事業は非常に成果があり、質の高いプロジェクトである一方、事業評価をする点において本来の基本方針とその事業の結びつきがなかなか見えない、どう評価していけばいいのかということが議論になった。これはもちろん黄金町だけの問題ではなく、これから20周年を迎える創造都市でどのように事業を整理していくのか、あるいは各組織との役割の差異化や事業目的の洗い出しは、もう一度、市とともに議論が必要であるという意見もあった。</p> <p>菅野委員 ○象の鼻テラスは、事業内容と運営体制を常に見直し、スタッフのキャパシティービルディングをどう生かしていくかということに機軸を置いて運営している。場合によっては専門性のある方にアウトソーシングする運営体制で、分科会としてはとても高い評価をしている。海の近くにある市民参加型の施設ということで、他の拠点とは違う強みを今後さらにどう高めていくのか。とてもいい立地であり、魅力的な施設なので、そこを使いたいという希望も出てきている。また、昨今、社会的インパクト評価という話が出てきていて、そういう視点が分かるような評価ができないかということが分科会の中で議論になった。数値で把握できるデータがあればそれがあつたほうがいい。ただし、定性評価と定量評価のバランスを勘案しないと数字だけがひとり歩きしてしまうので、その懸念は検討しなければならないということが議論された。全体としては高評価だが、評価のあり方を今後考えていく必要があるのではないかとというのが分科会として議論された。</p> <p>野原委員長 ○THE BAYS では、企業活動の中で事業を考えられているという意味では、持続的に活動していくにあたって企業の力もうまく生かしながらやっているところがある。様々なデータをお持ちで、データを分析して次を考えていくのは面白い取組だが、どの部分がこのプロジェクトの評価として見るべき指標・データなのかというのは、少し考えていかなければいけない。いろいろなプロジェクトをやっているが、単発的に見えており、プロジェクト全体を通すと、THE BAYS ならではのスポーツ&amp;クリエイティブになっているのかを見せられるような形をつくっていくことが重要なのではないかと、委員も含めてその期待が寄せられた。やっている内容としてはすばらしい一方で、それが見えているかということとそうでもなかったりするなと感じたので、そういうところをうまく引き出しながら発信できると、さらに広がっていくのではないかと、そんな議論もあった。今回、評価指標の項目を変更したが、評価のあり方については引き続き考えていかなければいけな</p>
--	--

		<p>いかなと思っている。</p> <p><b>【質疑応答・意見交換】</b></p> <p>岡本委員 ○各拠点の役割なり評価について、全拠点に同じようなことを求めるのではなく、各拠点の強みや特徴に応じた役割を生かしていくべきだし、そこを評価していくべきだという点については、以前よりそれぞれの特徴がよく見えるようになってきているのではないかと感じた。また、いくつかの拠点から出ていた、定量評価も取り入れるべきではないかということは、基本的には賛成だが、それは全体的な評価のあり方の中での定量評価になると思うので、まずは横浜市のほうでよく検討していただいた上で、それをどのようによりよい活動のために生かすべきなのかを双方がよく理解した上で取り入れないと逆効果だと感じる。</p> <p>遠藤委員 ○長期視点での評価が実は必要なのではないか。各拠点でこれまでの振り返りの話があり、それぞれの拠点らしさのブランディングみたいなことと、どうやって変わっていった新しい方向性を出していくのかということと同時に考える難しさみたいなものがある。その上で、10年とか20年の蓄積に対する事業評価というか、創造都市としてこれをどう評価してきたのかを、実はあまり言語化していなかったのではないか。この10数年の事業の内容を創造都市としてどう評価するのかという話が本当は必要なのかなという気がした。それから黄金町でも広域というキーワードが出てきていて、BankARTのインディーズ2022、象の鼻の鶴見の話と、THE BAYSの街にしみ出す観光ツアーの話もあり、広域展開みたいなことが全ての拠点の中で視点として出てきていることを創造都市としてどうやってサポートしていくのか、どうやって全体を考えるのかというのは議論が必要だと思った。</p> <p>簗谷委員 ○これまでの積み重ねをどう評価するかということはすごく大事だと思うがなかなか難しい。例えばBankARTで言えば、先端性みたいなものをどうやって評価するのかとか、来場者は少ないけれどもすごくとがっていて、今アートの世界のプロの中では評価されるものをやっているとか、そういったものの意味をどう評価するかというのはすごく難しい。ChatGPTで「横浜のアートスポットは？」と日本語で聞いてみると、「横浜にはたくさんアートスポットがあります。下に書いてあるのは一例です」ということで、8つか9つか出ていた。横浜美術館や神奈川県立近代美術館、そういう中でBankART1929もあって、BankARTが横浜市を代表するアートスポットの一つとして少なくともChatGPTが認知していることが分かる。他は公的なものやスケールの大きい美術館が並ぶ中で、BankARTが出てきているのは、やはり積み重ねがあるからだ実感した。</p> <p>治田委員 ○THE BAYSはコロナ禍の中であっても事業として非常に頑張ってやっておられるので、それをどのように皆さんに共有したら理解いただけ</p>
--	--	--

るのかということ、改めてもう一度考えなければいけないなど今日思った。分科会で出てきていたのは、事業における目標が毎年ぶれてしまい、報告の仕方がその場その場のトピックスにどうしてもなってしまうので、この先あと8年あるのであれば、委員会と横浜市と、もちろん運営団体ともきちんと目標を設定すべきではないかという話があった。各拠点の事業を横並びにしたときに創造都市としてどういう価値を提供したいのか、ここはむしろ横浜市なり委員会が設定しないと、事業者さんにそれを任せるのは難しいと思っている。あわせて社会的インパクトみたいなものも、団体さんはそれぞれの事業を頑張ってくださいばよくて、インパクトを測るのはこちら側というか、だから、その指標がしっかりしていない限り、そこを事業者にお任せしてはちょっとかわいそうという感じがしている。

恵良氏

○各拠点の説明で、コロナ禍の中で新しいニーズを見つける、地域との協働を図るといった新しい目線でベクトルが上へ向いてきていることを踏まえると、様々なエリアや施設で活動するときに、主語が施設になって我々はこれをしますと言い方でなく、もっと述語的に捉えて、場所や街でこういうことが起きますと言う方が効果的な場合がある。その地域や街の魅力を伝えていくときに、あまり力んで主語的にやらない方が良い。主役はアーティストであったり、運営者であったり、街の住民であったり、そして来訪者であるという視点を持って取り組む時期かと感じている。

野原委員長

○事務局で受け止めて今後の課題にしていきたい。1つには、創造都市施策全体の中で拠点というものをどう位置づけて、どのバランスの中でそれぞれによりよい形でやっていただくのか、そろそろ改めて提示していく必要がある。横浜市としてどのような形で拠点全体を動かしていこうとしているのかという整理がまず必要。あわせて、評価のあり方自身ももう少し再整理していく必要がある。拠点同士の連動企画があつて、よかったところもあつたと思うので、拠点同士を考えながらどうしていくかというのも考えていけるといい。そのあたりも含めて、少しあり方を検討していきたい。

<審議事項（1）について了承。>

<拠点ディレクター退室>

**審議事項（2）：旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について**

<事務局より説明が行われ、議題について審議が行われた。>

	<p><b>2 その他</b></p> <p>&lt;事務局から、情報提供が行われた。&gt;</p> <p>&lt;事務局から議事録の確認依頼や今後のスケジュール等について、事務連絡が行われた。&gt;</p>
資 料	<p>①次第</p> <p>② [資料1] 委員名簿</p> <p>③ [資料2] 前回議事録（令和4年8月10日開催分）</p> <p>④ [資料3] 令和4年度事業評価シート</p> <p>⑤ [資料4] 令和5年度事業評価シート</p> <p>⑥ [資料5] 旧第一銀行横浜支店の新たな活用に関する検討の進捗について</p>
特記事項	

【基本情報】

拠点名称	THE BAYS(旧関東財務局横浜財務事務所)	基本方針	①関内・関外地区における創造産業の集積をさらに推進し、これを横浜経済の活性化につなげる ②旧関東財務局の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る
運営期間	平成28年度～令和12年度（7年目／15年間）		
運営団体	株式会社横浜DeNAベイスターズ		

【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	評価		
評価軸			自己評価	委員会評価	
1 施設の運営状況	1	文化財の価値を損なわず、建物の歴史を生かした活用を行っているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の価値を損なわないようにするため、社内で新たな取り組みが検討される際には、施設管理担当が必ず施設面についても確認を行うようにした。</li> <li>・コミュニティスペースの利用状況については、事業報告書のとおり。ビジネススクールや子供向けアカデミーを始め、観光イベントなどでもコミュニティスペースを利用した。</li> <li>・3階会議スペースの利用状況については、事業報告書のとおり。</li> <li>・事業報告書のとおり、関内外地区における創造産業の集積のさらなる推進、日本大通り地区の賑わい創出につながる運営を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アフターコロナによって、会員利用の需要が少し落ちているものの、ビジネススクールの参加者にコミュニティスペースの使用権利を付与し、参加者同士の交流の場として使用するなどコミュニティスペースの最大限の活用に向けて工夫することができた。</li> </ul>	広報について、球団HP、リリース、記者へのアプローチなど、内容に応じて必要なメディアを活用していることは価値である。行政と連携するなどして、地域に対しての発信がもっと加わるとよい。関内エリアに染み出て行けるような工夫があるとよい。
	2	コミュニティスペースがクリエーター・企業等の交流の場として十分利用されているか？			
	3	3階会議スペースがラボ会員等に十分利用されているか？			
	4	事業計画協定書における事業計画を基本に、事業目的に適った運営がなされているか？			
2 広報活動	1	施設及び各事業の効果的な工法活動・情報発信が行われているか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンなイベント、ワークショップ等の発信コンテンツを定期的に開催した。</li> <li>・自社HP、拠点HPを中心とするオウンドメディア、SNSを活用した効果的な広報活動、情報発信に取り組んだ。</li> <li>・プレスリリース等を通じて外部メディアへのイベント告知などを戦略的に進めた。</li> <li>・イベント実施の際はメディアへの働きかけを行い記事にいただいた。</li> <li>・1FのPRコーナーでは、他の創造界隈拠点で行われるイベント等のちらしを配架し、創造都市横浜のPRを行った。</li> </ul>	引き続き、球団公式SNSやプレスリリース・各イベントの趣旨に合わせたメディアへのアプローチに尽力し、ほぼ全てのイベントで集客に成功した。 また、メディアへの事前のアプローチを戦略的に行うことで、メディア露出の機会も増やすことができた。 例 ワーキングハマスタ…17件 職業体験…7件 ※いずれも波及元メディアのみ	
	2	創造都市横浜のPRにつながる工夫がなされているか？			
	3				
3 施設の維持管理	1	施設を法令順守して維持管理しているか？(特に文化財として)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の維持管理では、日常清掃と定期清掃をヒトヒト株式会社へ、設備管理や各種点検は株式会社相鉄企業へ委託し、維持管理に努めた。</li> <li>・施設の変更や修繕については、毎月、横浜市文化観光局様へ維持管理報告書を提出しているほか、利用方法の変更を検討の際にも、文化観光局様へ事前に相談し、都度、判断を仰ぐようにした。</li> <li>・安全対策、安全管理は、ヒトヒト株式会社と相鉄企業株式会社とも都度連携し、法令で定められた点検、検査などを実施した。</li> </ul>	建物が文化財であることを十二分に踏まえ、法令に遵守して維持管理することができた。 また、安全対策、安全管理についても怠ってはならず、その結果、これまで無事故で施設の維持管理をできていると自負している。	
	2	施設の変更や修繕について決められた通り報告しているか？			
	3	利用方法の変更などについて事前に報告・相談をしているか？			
	4	安全対策、安全管理をしっかりとした体制で行っているか？			

Ⅱ 創造性／政策達成評価					
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果		
1 関内外地区における創造産業の集積をさらに推進する	1	スポーツ×クリエイティブというコンセプトを体現する活動、事業等を総合的に実践できたか？	今年も下記4つの軸でイベントを実施し、網羅的に、スポーツ×クリエイティブを体現する。軸①Next Ballpark Meeting 軸②ビジネススクール/子供向けアカデミー 軸③観光プロジェクト 軸④スポーツ×〇〇イベント	4つの軸に沿ってイベントを実施することができた。イベント詳細に関しては事業報告書のとおり。軸①～③では過去一番の実施回数・参加者数となり、これまで以上にTHE BAYSの活動を知ってもらうきっかけを作ることが出来た。	<p>自己評価</p> <p>運営側が企画したイベントを実施するだけでなく、Next Ballpark Meetingで出たアイデアの実現など、利用者のニーズにあったサービスを提供することができたことは進歩となった。また、ワーキングハマスタでは、試合観戦経験のない方・その日に試合観戦をしない方にも横浜スタジアムに足を運んでいただけるなどこれまでアプローチに苦戦していた野球ファン以外の層にも参加者の幅を広げることができ大きな成果となった。</p> <p>また継続的にビジネススクールを実施し、総計100名の方に参加してもらったり、小学生・中学生向けのアカデミー(職業体験プログラム)を実施し、未来を担う子どもたちにまでイベント対象の幅を広げ、創造産業創出に向けて徐々に人々を集める土台が出来上がってきた。</p>
	2	新たなイノベーション・創造産業の創出・集積に向けた活動が進んでいるか？(創造産業創出にかかるとともに、多くのステークホルダーの方が集まれる場を拡大していく)	横浜スタジアムをCSLの会議室として活用し、市民に向けたコミュニティホールパークを目指すとともに、多くのステークホルダーの方が集まれる場を拡大していく	ワーキングハマスタとしてスタジアム会議室の利用をスタートさせ、試合日・非試合日合わせて、555名の方に利用いただくことができた。またメディアにも多く取り扱っていただき、THE BAYSの宣伝にも繋がった。またワーキングハマスタ利用後にCSLを使えるプランを作成することで、THE BAYSの集客にもつなげることができた。	
	3	創造界隈のクリエイター、企業、大学、市民、行政との交流・連携が促進されているか？	子供向けアカデミーでは、関内外で活躍するクリエイターやCSLの会員とコラボし、継続的な交流・連携を促す。	これまで実施していた小学生向けのプログラムを中学生にまでその幅を広げることができた。また、イベントでは地域の企業や市民の方との連携を行うことができた。	
2 本施設の活用を通じて日本大通り地区の賑わい創出を図る	1	日本大通り地区の賑わい創出に貢献しているか？	コロナ禍においてニーズが高いランチタイムでのオープンテラスや中庭への集客に力を入れる	昨年度に引き続き、コロナの影響でランチの時間帯には多くのお客様にオープンカフェや中庭を利用していただいた。またイベントに関しても観光ツアーのゴール地点として中庭を利用いただいた。	<p>委員会評価</p> <p>参加者の属性をしっかりと把握しており、申込段階のデータを分析して、次の企画立案にも反映している。データの活用と広がり評価できる。</p> <p>BAYSでは、自ら事業を実施することにとどまらず、地域のエコシステム形成に参画していくことも可能と考える。</p>
	2	日本大通り地区の事業に参加・協力しているか？	日本大通り活性化委員会への参加/その他日本大通り沿いのイベントに参加する	引き続き日本大通り活性化委員会への参加や、オープンカフェの実施をした。	
	3	スポーツ×クリエイティブという視点から、創造界隈の形成や関内外の活性化にも活動を広げているか？	ビジネススクールでは関内外の活性化をテーマとした解決策を参加者とともに検討していく。観光では引き続き、THE BAYS、日本大通りという枠を超えて関内外や横浜のまちを楽しんでいただくプログラムを創り出す	これまで実施していた小学生向けのプログラムを中学生にまでその幅を広げることができた。また、イベントでは地域の企業や市民の方との連携を行うことができた。	

総評	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民間企業のノウハウによって、戦略的に事業を実施している。</li> <li>・多様な事業を実施している一方で、民間企業の単独の取組のように見えている。個々の取組の相関図などにより、全体の目標に対する各事業の位置づけを意識できるとよい。</li> <li>・横浜スポーツタウン構想への関わりについても検討できるとよい。</li> </ul>	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常的な身近なつながりの戦略がほしい。局の組織にスポーツの部局が入るとのことなので、連携を期待したい。</li> <li>・運営事業者とともに、個々の取組の相関関係がわかる図を作るべき。また、定量、定性にかかわらず、指標を設定することが望まれる。</li> </ul>
----	---	--

これまでの総評	R2	コロナ禍において、事業自体が中止・延期となる施設も多い中で、オンラインや運営団体の工夫を通して、活動を継続し、かつ発展させてゆくことができた点はよかったと思われる。今後、こうした活動の認知・発信を強化するためにも、公民連携を通じて各方面からアプローチするとともに、横浜スポーツタウン構想を始めとして、地域や地域のクリエイター、他の拠点等との連携を通じて活動を発展させていきたい。
	R1	・4年目を迎えて、活動としては非常に活発化しているが、創造産業に関する活動のアウトプットが不足している。外部との連携も踏まえた創造産業の集積の促進と発展に向けて頑張ってもらいたい。
	H30	・創造産業の集積に対する取組みを行っており、成果が会員数の増加などの数字に表れている。
	H29	・新規の取り組みへの投資もしながら健全経営をしている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACYや市との協働も行っており、昨年度の課題を受け止め、それを丁寧に実施している。</li> <li>・入口としての取組は、数多く実施しており評価できる。</li> <li>・今後さらに、活用事業者と市の協力(及び他の拠点との連携)により、アウトプットの発信・販売戦略等を協力して練り、各取組を創造産業の創出・集積という出口につなげていく必要がある。</li> </ul>
--	--

# 令和4年度 事業評価シート

## 【基本情報】

拠点名称	象の鼻テラス	基本方針	①創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する ②象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す
運営期間	令和2年度～令和6年度（3年目／5年間）		
運営団体	株式会社ワコールアートセンター		

## 【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 無料休憩スペース/ 観光インフォメーション 運営	1 市民に開かれた無料休憩スペースを運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症拡大防止策は、次の通り継続。[出入口の専用通路／出入口のアルコール消毒設置／入口箇所無人体温器設置／透明アクリル板設置／来場者への呼びかけ／マスク飲食実施店の認証(象の鼻カフェ)]</li> <li>●感染症の影響で、イベント中止やスタッフの陽性者も出たが、年中無休の営業を続けることができた。</li> <li>●観光インフォメーションにおいては、市民ガイドスタッフを中心に無理ない運営体制で臨んだ。</li> <li>●常設展示に加え壁面展示型の催事を多く実施した。</li> <li>●利便性向上を目的とした開館時間延長(金・土曜の19時まで開館延長)や時間外活用の催事については、例年より縮小しながらもコロナ対策を徹底して実施した。</li> <li>●来場者数は、昨年比で上回っている(10.6%～15.9%)。コロナ前の2019年度との比較については、低い時は5.8%、多い時は130～150%。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●新型コロナウイルス感染症の影響はまだ残るが、またイベント参加者、来場者からクラスタが発生せず年中無休の運営が達成できていることは成果である。</li> <li>●観光インフォメーションを担当する市民ボランティアガイドの活動が自律的に続けられていることは成果である。協力催事の中で企画協力する場面ではガイドスタッフ有志が参加し成功を取めた。ただ、登録人数、その中でも中心的に活動するメンバーが限られてきたことは課題であり、今後体制を拡充する必要がある。</li> <li>●今期の方針でもあった長期型の催事を意識的に多く開催し、日常的な文化体験に繋がった。</li> <li>●来場者数の推移をみると、2019年度を上回る月もあり、感覚的にも賑わいが戻りつつある雰囲気を感じている。旺盛な活動に移行しつつある社会情勢を鑑み、ネクスト・ノーマルのスタイルを保ちつつ次年度の運営に繋げたい。</li> </ul>	<p>コロナ禍が落ち着きつつある中で、来館者数が増加し、にぎわいが戻ってきている。会場使用に対して多くの問合せが来ているなど、海辺にあって設備が整っている施設への期待値の高さを感じる。</p> <p>新規団体との連携あるいはパートナーシップが生まれ、効果が出てきていることは評価できる。</p> <p>ダンス緑日などでは、これまで参加料を課していなかったが、今年度より参加料を徴収するなど自助努力は評価できる。</p> <p>体制に対して業務量が多いが、広報やイベントの司会といった、専門性が高いところはアウトソーシングを行うなど、工夫もみられている。スタッフのキャパシティ・ビルディングについても、本人のスキルアップにつながるようなセミナーや公演活動へも参加を促すなど、象の鼻テラスの事業への還元が期待できるので、継続することが望ましい。</p>
	2 観光インフォメーションの運営			
	3 利用者の利便性向上に資する取組			
2 運営体制	1 スタッフの配置状況(役割・人数)、勤務体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>●4月に施設長が人事異動により交替。その他はコロナ禍でも人員削減することなく、昨年同様専従者を含む7人体制で推進した。今期は「イベントスケジュールの早期決定・催事実施判断の精査」を軸に、労働負荷改善と業務内容の充実に向け適時外部スタッフを配置して確実な運営に努めた。</li> <li>●10月に社用PCの盗難事件があり、個人情報漏洩のおそれ発生させる事案が起こった。発生直後より、横浜市担当部局並びに当社ITガバナンス部、法務部を中心に連携し、漏洩のおそれがある対象者への早期の連絡及び個人情報保護委員会への報告を行い、幸い現状漏えいは発生していない。</li> <li>●外部催事やセミナー等への積極参加、当該スタッフの専門領域に関する自主イベントを実施するなど、各スタッフ自身が専門性を磨く時間を当てられるようサポート体制を整えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スタッフ一同感染症対策に関しても高い意識を持ちながら、昨年に引き続き7名での運営を実施。イベントスケジュールの早期決定及び実施判断の精査に関しては施設長を中心に推進。「自助努力」としての、「事業性」の高い催事を多く実施しながらも業務負荷の低減ができたのは成果と考える。</li> <li>●10月のPC盗難事件を契機として、全社で情報セキュリティ体制を見直し、ログインパスワードの厳格化やデータファイルのクラウド管理への移行等を推進。今後に向けてより隙のないセキュリティ対策を行った。</li> <li>●各文化芸術事業の担当スタッフの経験値向上は事業推進においてもプラスになると考え、外部催事等への積極的な参加を促した。表現者として活動するメンバーもいるので、業務と各自の表現活動のバランスを意識した運営手法、職場環境づくりを今後も推進していく。</li> </ul>	
	2 緊急時の体制			
	3 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
3 施設の維持管理	1 施設の維持管理状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設の維持管理については、定期的に設備点検を実施。修繕箇所について月次定例会にて市担当者情報共有しながら順次対応している。長らくの懸案であった電気室の水漏れの補修対応と昇降トンのメンテナンスを実施。引き続き安全上の優先度が高いものから修繕にあたるよう努めていく。</li> <li>●新型コロナウイルス感染症拡大防止策にかかる備品・設備を継続配置。</li> <li>●各催事で出入りする関係者や、一定時間を拘束するタイプの催しや催事の種別によって参加者を対象に、来場時の検温実施と消毒を呼びかけ、記録に残すことを徹底した。(年度の途中から、業務付々が解除されたことから個人情報収集は取りやめ)</li> <li>●パーク・テラス共に催事の多かった秋口に公衆トイレを中心に故障や破損が発生。利用者に迷惑を掛けないことを第一に、迅速に補修対応を実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●長らくの懸案であった安全性の課題に着手し、修繕とメンテナンスを実施できたことは成果と考えている。今後は、月例の定例会で実施している修繕必要箇所の共有と優先順位づけを継続し、安全面で不安のない状態での運営が基本となるよう意識づけをおこなっていく。</li> <li>●新型コロナウイルス対応は、市のガイドラインに基づき手指消毒、パーテーションの設置など十分な対策を実施した。</li> <li>●集客催事について人数制限と検温・消毒の感染症対策を実施。当施設のイベントでのコロナ感染の報告は受けていない。</li> <li>●公衆トイレを中心に故障が多発した時期があったが、業者との密なコミュニケーションにより迅速に補修対応ができ、利用者からのクレーム等は発生していない。</li> </ul>	
	2 施設の小規模修繕・改善状況			
	3 安全対策、安全管理体制			
4 広報活動	1 象の鼻テラス及び各事業の効果的な広報活動・情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スパイラル広報部と連携し、定期的な振り返りと広報フローの運用改善を実施。</li> <li>●SNSでは特にInstagramに焦点を当て、昨年度よりも戦略的且つ投稿数を増やして運用。地道な情報発信を続けた。</li> <li>●来期にウェブサイトリニューアルを予定しており、わかりやすく発信力のあるサイトの構築に向けて動いている。</li> <li>●各事業の広報活動について、FUTUREScape PROJECTでは外部スタッフを配置し戦略的な活動に取り組めた。記録集も発行した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主にInstagramからのSNS発信に注力し、SNS広告を含め、日常のテラスの様子をより多くの人へ認知が広がるよう発信することができた。様々なジャンル・深度の活動を伝え、象の鼻テラス自体のファンが各方面に広がってきている。</li> <li>●使い勝手の良い発信性のあるWEBサイトへのリニューアルは、象の鼻テラス認知拡大につながると考えており、広報活動の振り返りと戦略的な広報計画を立てることで、リニューアル計画に活かし推進していく。</li> </ul>	
	2 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			
	4 海外を意識した情報発信(バイリンガル対応等)			

II 創造性／政策達成評価				評価		
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価	
1 創造都市横浜の推進のため、文化観光交流拠点として、質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する	1 質の高いアートプログラムを国内外に向けて発信する事業 □新規性・独自性の高い活動並びに象の鼻地区の特性を生かした国際性の高い事業の展開 □多様なアーティスト、クリエイターへの活動の提供 □多様な文化芸術活動主体との連携	PORT JOURNEYS	●ディレクターズミーティングはオンラインで開催し、各都市の状況共有や2024年に向けた横浜での展開の元とをアイデアディスカッションを実施。ハンブルク、フロンゲン、アテネ(ジョージア州)、光州、高雄、ヘルシンキ、レイキャピク、横浜から約20名の参加のもと行った。	[PORT JOURNEYS]物理的な行き来にハードルが高い昨今の状況を踏まえ、本事業の方針を模索しており、本ディレクションは2024年度までの展開の方向性を固めるため実施した。コロナ禍の各都市の状況や各自が感じていることの共有ができた。来期以降の方針を立てることができた。	バリエプロジェクトに代表されるような、地に足の着いた質の高いプログラムを安定して行っており、評価できる。	
		ゾウノハナバリエプロジェクト	●年間を通して実施した、身体を使った自由な表現を追求するワークショップには幅広い世代やバックグラウンドの人が参加した。 ●安藤淳子演出・振付による「Walk Installation ARUKU vol.3」公演を行った。約半年の濃密なクリエイションを重ねた11名の若手ダンサーと、アーティストのジヨン(韓国)による映像インスタレーションとともに舞台空間を作り上げた。	[BALLE]幅広い世代を対象とした内容に発展させたことで、ダンス経験者だけでなく様々な参加の動機をもつ人が集まり、広がりを見せている。公演「Walk Installation ARUKU vol.3」では自助努力で、公演費用を助成金で賄うことができ、さらに、初めて公演映像を公開することができた。	鶴見小野の取組は、地元の参画があり、創造性の種が郊外で花開いた一つの成果である。	
		協力事業／フランス月間	●展示と、展示に関連し子ども向けのワークショップ、音楽ライブを実施。	[フランス月間]展示作品は環境問題や哲学を考えさせるもの。AR技術を用いた仕掛けも相まり、子どもから大人まで作品を体験する様子が伺え、質の高いアートプログラムを多世代にひろく行うことができた。	象の鼻テラスのプロジェクトに参加し、育った人材・才能は財産である。こうした人材の活動を展開できるように、ネクストステップの場として拠点間など、横のつながりを使って、横浜で創作活動をする方たちをエンカレッジする仕組みが望まれる。	
	2 まちづくり、賑わいづくりに資する事業	□都市文化観光への寄与 □都心臨海部の立地環境、歴史性を意識した企画・活動 □市民のQOL向上につながる事業展開	ZOU-SUN MARCHÉ	●感染症対策を十分に配慮しながら安全性の高い運営を継続しつつ、マルシェのアイコンとなるよう、デザイン性の高い仕掛けを増設した。 ●週末開催の通常マルシェに加え、よりテーマ性の高いマルシェを実施(税関150周年、ハワイ・マルシェなど)。	[MARCHÉ]コロナ対策を十分に行いつつ、新しい展開としてテーマ性の高いマルシェを複数実施できたことは、今後のマルシェの活動拡大にも繋がる成果と考える。新規に製作した仕掛けも好評なので、市民に喜ばれるコンテンツとして拡充していきたい。	事業の効果や成果が見えるよう、統計データ、参加者アンケート等で把握している声があれば、ぜひ共有してもらいたい。
			PORT JOURNEYS/weTREES TSURUMI プロジェクト	●weTREESにおいては、海外アーティストと2つのプログラムを実施。実行委員会事業でも企画協力として推進にあたった。 ●当初目標に掲げた鶴見小野での拠点づくりは「ONO POINT」がオープン。	[PORT JOURNEYS/weTREES]鶴見小野の事業では、他案件との組み合わせなどで海外アーティスト2組のプログラムが実現できた。目標に掲げた拠点が3年越しでオープンできたことは大きな成果である。	運営団体の安定した運営能力と質の高い文化事業の実践を評価した上で、運営面及び事業面においてさらなるレベル・アップのために、以下の事項が今後、検討されることが望まれる。
	3 市民にとってより身近で開かれた事業 □市民参加プログラム、教育プログラムの充実 □市内教育機関、文化施設等との連携 □ガイドボランティアの自律性強化	□市民参加プログラム、教育プログラムの充実 □市内教育機関、文化施設等との連携 □ガイドボランティアの自律性強化	Atelier ZOU-NO-HANA	●象の鼻テラスの他の事業と連携し、子ども向けのワークショップを実施。 ●郊外の小中学校で「出前ワークショップ」するアウトリーチ。今回は3校を担当し、演奏、身体表現(ダンス、ジャグリング)などアーティストによる授業を実施。	[ATELIER]小学校派遣を通してクリエイティブ・チルドレン育成に寄与できている。また、これまで活動を通じて、柔軟に子ども向けプログラムに対応できるアーティストとのネットワークが広がっている。	1. 数値で把握できるデータなど、把握しておくようにするのが望ましい。その際、数値が独り歩きしないよう、定性評価、定数評価をバランス良く表記できるようにする。 2. 事業の社会的インパクトについても評価できる様式があると良い。 3. 事業や運営の更なる効率化及び効果を高めていくため、他の拠点とさらに連携が図れると良い。連携しつつ、市民のQOLの質を高めていくため、教育プログラム、鶴見の例にみられるように、市内への波及効果を高めていくこと。
			ETB(エレファント・トラベル・ビューロー)	●スタッフ有志が「税関150周年企画」に参加。イベントは成功を収めた。 ●近隣の船会社との連携企画「おさんぽクルーズ」も本格再開。人気により2便稼働。	[ETB]市民ガイドボランティアのチームの自律的かつ意欲的な活動が定着している。クルーズも臨時便を出して2便運行が恒例化しており、象の鼻テラスの人気コンテンツである。企画推進に重点が置かれているため、通常の観光ボランティアのチーム体制の拡充は課題。	
			ダンス縁日	●収益性の「自助努力」として、従来の無料参加方式から参加料徴収式に変更。コンテンツの高い集客力を評価され、企業協賛も獲得。	[ダンス縁日]参加者から参加料を徴収した事への異議等はなく、むしろ「または是非参加したい」という方が多くいらっしゃった。初の企業協賛も獲得し、「自助努力」としての事業化コンテンツのモデルスキームになったと考えている。	
			スナックゾウノハナ	●時間外活用のプログラムは音楽ライブ、ダンス公演を主に実施。今年度は特に、夜の時間を活用した質の高い音楽ライブの実施に注力した。	[SNACK]音楽イベントを海辺のローケーションで開催できる象の鼻テラスの良さを多くのプロの音楽家に認知されてきており、今後も質の担保されたプログラムを実施していきたい。	
	4 協力事業 □横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等との協力・連携	□協力事業 □横浜市主催事業、横浜市の政策に沿った事業、創造界隈拠点と連携した事業等との協力・連携	スローレーベル/ヨコハマ・パトリエンナール	●ソーシャルサカスの更なる普及を目的に、教材プログラムを横浜市内の個別支援線を含む小学校3校で実施、障害者関連施設へのスターターキット寄贈とモニターワークショップ実施や、年間を通じた講座「SLOW ACADEMY」をおこなった。SLOW ACADEMYの最終発表は象の鼻テラスで行われた。 ●独立行政法人国際交流基金の助成事業で日米ソーシャルサカス交流を開始。	[SLOW]オリバラを経て次のステージに移行した1年、ソーシャルサカスを活用した横浜良のダイバーシティインクルージョンを学ぶ教材プログラムを確立し、多くの展開を生み出した。運営側でも、障害のある「パフォーマー」たちの新しい仕事になることも目指し、パラリ参加経験のある障害者パフォーマーがアシスタントに参加しており、多様性のある社会のモデル事業として着々と実績を積んでいる。	
			その他協力事業	●新型コロナウイルス感染症拡大状況によりプログラム中止(1件)が生じたが、感染対策を主催者に徹底してもらいながら無事に推進。23プログラム実施(中止案件含まず)、13組の新規連携パートナーを得た。	[協力事業]施設利用について多くの問い合わせを受けており、新たな団体との関係構築に繋がっている。恒例化した催事も多く、協働団体の拡がりを生み出していきたい。	
			展示壁を中心とした長期展示 ・ZOU-NO-HANA GALLERY SERIES ・PORT JOURNEYS	●ZOU-NO-HANA GALLERY SERIESを4回開催。 ●各種事業に関連し、アーカイブ映像の展示などを行った。	[館内展示]日常的な文化体験を意識し、ギャラリースリーズは4つを実施。その他、BALLETプロジェクトの公演映像を展示するなどプロジェクトを知ってもらう機会創出にも繋げている。PORT JOURNEYSとしての展示は今期実施に至らなかった。	
6 便益施設(カフェ)運営 □カフェからの積極的な文化発信	□便益施設(カフェ)運営 □カフェからの積極的な文化発信	・オリジナルイベントの開催 ・文化芸術事業との連動	●BENTO PROJECTは、アンケート収集を中心に取り組んだ。 ●象の鼻テラスの芸術文化事業と連動し、屋外販売や時間外営業を実施。	[CAFE]アンケート収集を定期的により利用者の要望を把握する機会として有効に活用している。		
		公共空間の活用	●夜間にフォーカスして実施。「ヨルノヨ」と連携し、夜の時間帯の賑わい創出に寄与した。 ●招聘アーティスト、大学、企業ら出展者による、多種多様なプログラムを実施した。新規の大学から、2組の参加、新規2組の企業参加が得られた。 ●非接触型かつ一般市民の表現のプラットフォームとして公募型写真展「フューチャースケープ・フォントテスト」を立ち上げた。金賞受賞者展は2023年5月2日～7日で実施予定。	[FUTURE]「スマートイルミネーション」の開催状況について今でも問い合わせがあるほど、当企画を楽しみにする市民の存在を実感するが、今回のテーマ設定、さらに「ヨルノヨ」と連携したことで横浜全体で回遊性あるコンテンツづくりができたことは成果である。高齢層にもリーチしやすい写真をテーマにした新しいシリーズでは、公募数は想定より少ないが次回開催時には核々課題はあるが、多世代が集まる場づくり、さらにネクスト・ノーマルを体現する非接触で参加できるスタイルを確立できたことは大きな成果である。	フューチャースケーププロジェクトは、横浜都心部の日本大通りから象の鼻にかけて創造性がリレーする姿が見られて、非常に良かった。ヨルノヨと連携し、横浜の魅力である夜景を通じて水際線が繋がった。	
2 象の鼻パークとの一体的活用により、利用者の利便性や象の鼻パーク全体のブランド力向上を目指す	1 □象の鼻パークとの一体的活用・ノウハウの蓄積 □象の鼻地区の魅力を向上させる活動	フューチャースケープ プロジェクト	●夜間にフォーカスして実施。「ヨルノヨ」と連携し、夜の時間帯の賑わい創出に寄与した。 ●招聘アーティスト、大学、企業ら出展者による、多種多様なプログラムを実施した。新規の大学から、2組の参加、新規2組の企業参加が得られた。 ●非接触型かつ一般市民の表現のプラットフォームとして公募型写真展「フューチャースケープ・フォントテスト」を立ち上げた。金賞受賞者展は2023年5月2日～7日で実施予定。	[市の取り組みべき事項]年々事業の取組が深化し、発展する中で、事業開始当初に立てた目標や評価軸を軌道修正していくことが必要な場合もある。事業の目的や着地点を運営事業者とともに考えてもらいたい。		
仮総評	●象の鼻テラスらしい質の高いプログラムを多数実施しており、非常に充実したコンテンツとなっていることは評価できる。 ●事業を行うことにより何が変化しどういった影響があったか、事業の成果を広く浸透させていくために、数値などの目標を共有し確認していく必要もある。					
これまでの総評	R3	●コロナ禍においてもこれだけの活動を行い、実績を積み上げたことは高く評価できる。 ●これまでの成果を次の担い手へ繋いでいくことにも重点を置いてほしい。育てたところが主体的に活動しているような事例を増やし、持続可能な発展をしていくことが望まれる。 ●事業内容は充実しているため、市民のクオリティ・オブ・ライフをどのように高めたのかといった社会的インパクトの観点からの成果を見える化することも求められている。				
	R2	●コロナ禍においても、基本方針の達成に向けて様々な工夫の中で事業を進められてきたことは高く評価できる。 ●事業の選択と集中が進んだことで洗練されてきており、特に、市民参加型を中心とした事業は、象の鼻テラスらしい個性が明確になってきている。 ●体制や事業内容は充実してきているが、事業運営の方法等の工夫の余地はまだあるため、現状の手法にこだわらずにチャレンジしてほしい。				
	R1	●国有地、港湾施設として制約が多い施設運営にもかかわらず、市民を対象とした質の高い多彩なプログラムを実施し定着させている。10年間に築上げた実績は大きい。 ●これからの5年、10年を見据えたうえでフューチャースケープ・プロジェクトのような意欲的なプロジェクトを実施し、新たな可能性と方向性を見つけたことは評価できる。 ●アート・プログラムのターゲットがなかなか絞り込めないという難しさがある中で、市民に開かれたプログラムを着実に実施してきている。				
	H30	●港にあることの特質や市民への開放性など、象の鼻テラスらしさのある企画が行われている。 ●10年という時間をかけて象の鼻テラスというブランドが確立されている。ここにしかない、かつ、市民に開かれた空間が、市民からの提案という形で実現する可能性があることが、他の拠点と違う特徴であり成果である。 ●分科会で出た課題についてはきちんと改善・向上するよう努力されており、少ない人数でしっかり運営していることは評価できる。				

# 令和4年度 事業評価シート

## 【基本情報】

拠点名称	初黄・日ノ出町文化芸術拠点	基本方針	◆安心・安全のまちづくりを最優先に位置づけ、以下の理念を基に文化芸術によるまちづくりを行う ①文化芸術の方で新しい価値観を産み出し、地区の活性化 ②NPO法人を中心に、地域、企業、行政、警察、ボランティア等を巻き込んだ新しいスタイルの事業運営 ③産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開 ④大学、研究機関等との連携により、まちの活性化、地域再生のモデル地区として全国に発信する
運営期間	令和4年度		
運営団体	黄金町エリアマネジメントセンター		

## 【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 全体事業収支	1 全体事業収支	[経常収益計] 109,164,385円 [経常費用計] 105,625,146円 [収支差額] 3,539,239円 [横浜市補助金比率] 56.9%	収益はコロナ関連の補助がなくなり、有料の展示会も実施しなかったため大きく減少したが、スタジオ・レジデンス施設の稼働率が上がり家賃収入の増で補う形となり、結果として前年比約21百万円の減となった。支出を絞り込み、前年比約23百万円の減とした結果、例年行っていたたぎ資金の借入れが不要となった。	事業収入増に向け、提携先を確保し新規事業を立ち上げる想定をしているが、一方で従前の業務量を圧縮する取組をしたところであり、団体としての業務量やマンパワーのバランスが危惧される。
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
2 事業収入	1 黄金町バザール・企画展・イベント等収入(チケット収入等)	[イベント等収入] 340,757円 [黄金町芸術学校受講料収益] 100,960円	家賃収入の増が顕著であるが、借り上げ施設の減少傾向と相まって、展示等で活用できる施設が減っており、有料の企画展実施のための新たな会場確保が課題となっている。また、助成金、協賛金の確保も、安定した事業運営のための課題である。	収入を増やすというのと同時に支出を減らすということも赤字化を縮小する一つの手立てで、そちらのほうがか先なのではないか。
	2 黄金町芸術学校(受講料)	[高架下スタジオ利用料(短期利用)] 1,080,000円		
	3 高架下スタジオ利用料	[その他物件家賃収益] 28,807,402円 [ギャラリー等作品販売収益] 4,520,318円		
	4 その他物件家賃収入	[受託収益] 13,877,500円		
	5 ギャラリー等販売手数料	[その他収益] 915,540円		
	6 その他(助成金、協賛金等)			
3 施設の維持管理状況	1 施設の利用状況(管理施設数、稼働状況)	[施設の利用状況] 109戸 [施設の利用状況]	施設の老朽化が進んでおり、長期的な展望から、改修工事にあたっての標準的な仕様を整備した。この仕様にとり、現在、改修工事を実施中だが、昨今の工事コストの高騰により、計画通り工事を進めることが難しくなってきた。	事務局のスタッフが新規雇用により拡充したところだが、業務量過多などの状況が改善されないと、数年後にはスタッフが疲弊しモチベーションが低下するなど、再度体制が弱体化するのではないか。
	2 施設の管理状況	貸出施設/展示施設/自営店舗/事務処理用/入居者共用施設/倉庫利用/未整備/利用不可		
	3 施設の修繕・改善状況	[施設の改修状況] 改修工事にかかる標準仕様の作成 展示スペースの改修1件/交流スペースの改修1件/スタジオ兼レジデンススペースの改修5件		
	4 安全対策・危機管理体制			
4 運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇	[事務局スタッフの配置状況] 事務局長・事務局次長 各1名 総務経理 常勤1名非常勤2名 アートプロジェクト(AP) 常勤4名、委託2名、非常勤2名 エリアマネジメント 常勤2名(うち1名AP兼務)、委託1名 店舗等運営 非常勤6名(うち1名AP兼務)、委託1名	若いスタッフが多いため、仕事をしながら習熟を目指す形にならざるを得ないが、それぞれの専門性を活かしながら、できるだけ情報を共有して進めるようにしている。	事務局のスタッフが新規雇用により拡充したところだが、業務量過多などの状況が改善されないと、数年後にはスタッフが疲弊しモチベーションが低下するなど、再度体制が弱体化するのではないか。
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
5 広報・発信	1 地域再生のモデル地区としての発信	黄金町まちづくりニュースの発行(9,12,3月)各3,500部(協議会事務局として)	9～10月に京急百貨店で実施した展示の際に、黄金町のまちづくりを紹介するパネル展示を実施し、多くの人に活動を知ってもらえた。また、10月に降立でテレビの取材が入り、アートによるまちづくりが紹介され、番組を見た方々からの反響も多くあった。	事務局のスタッフが新規雇用により拡充したところだが、業務量過多などの状況が改善されないと、数年後にはスタッフが疲弊しモチベーションが低下するなど、再度体制が弱体化するのではないか。
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信	事業ごとのポスター、チラシの作成、SNSでの発信 京急百貨店でのパネル展示、WS、作品展示(9～10月、12月) TV番組取材対応		
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信	ウェブサイトでの全面的リニューアル準備 YouTube動画の拡充		
	4 事業のアーカイブの作成、発信(AIRアーティストのその後の活動状況の見える化を含む)	韓国、中国、イギリスなど、海外からの視察・ヒアリングが増えた		

II 創造性／政策達成評価				評価			
評価軸		評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価	
1	文化芸術の力で新しい価値観を生み出す	1	アーティストへの滞在・制作・発表の場の提供 アーティスト支援の充実が図れているか 他のAIR事業との差別化が図れているか	AIR事業 長期・短期レジデンス/共用施設の運用/中間面談/アーティストミーティング/作品展示・販売協力/勉強会実施/広報協力 <目標>入居者数(長期)60組(短期)20組、施設整備数8件	[長期レジデンスアーティスト数]延べ41組44名(内、海外6名) [短期レジデンスアーティスト数]延べ16組19名(内、海外13名) [施設整備数] 7件 [アーティスト支援] アーティスト連絡会議/アーティストのための英会話講座/インボイス制度講座/工房整備および運営/個展の企画運営/ギャラリートークやオンラインストアでの作品やグッズの販売協力	アーティストの滞在が復活したためあって、急速に滞在アーティスト数が回復し、施設としてはほぼフル稼働の状況が続いている。また後述するが、レジデンスアーティストを紹介する展示作品やグッズの販売等を通してアーティストに対するサポートを継続している。今後の課題は、レジデンス卒業生のその後の行き先を探ることが求められる。	各種の事業実施については、コロナが明けたと感じるほどに、活気のある事業展開の様子が確認できて大変良かった。 アーティスト・イン・レジデンスが動き出した。特に海外との交流では、人脈やネットワーク、アートのセンスの持ち方など、ディレクターの力は大きいと感じる。
		2	国際的なネットワークの強化	国際交流事業 レジデンス交換プログラム/海外展示/東アジア文化都市交流/海外アトリエ紹介/海外向け情報発信 <目標>交流団体5団体	[交流団体]9団体 LUXERLAKES A4 Art Museum(中国・成都)/泉州市海外交通史博物館(中国・泉州)/Taipei Art Center Trade Union(台湾・台北)/Space Ppong(韓国・光州)/Drowning House(韓国・清州)/釜山文化財団(韓国・釜山)/Chiang Mai Art Conversation(タイ・チェンマイ)/Load na Dito(フィリピン・マニラ)/スペイン・バスク自治政府ビスカヤ県文化部(スペイン・バスク)  [企画展示] ・黄金町国際AIRプログラム 2022 成果展「交流再来」 ※中国人アーティストは来日が叶わず、オンラインにて実施。 ※関連プログラムにて、フィリピンのキュレーター1名をインターンとして受け入れ  ・東アジア文化都市交流事業 福建省泉州市の世界遺産登録記念展  [レジデンス交換プログラム] ・中国・成都 12月に約2週間、瀧健太郎を派遣 ・韓国・光州 9月から約2ヶ月間、照沼敦朗を派遣。現地にて滞在制作と展示を行う(東アジア文化都市交流)  [その他] ・ドクメンタ15報告会の開催 ・Drowning House(韓国・清州)による展覧会を黄金町で開催 ・釜山、清州、光州各都市のフォーラムに登壇 ・バスク地方からの派遣アーティストの受け入れ、展覧会開催。	国際交流事業も復活の兆しを見せている。文化庁助成による交流再来展は、中国の作家を除く4カ国のアーティストが来日参加、制作のプロセスや相互交流など、この数年間とまったく違うものになった。 東アジア文化都市、光州はリアルな相互交流を再開した。韓国は特に複数の都市が連携して私たちを招待し、各地で視察やフォーラムを行った。	
	3	年間を通した賑わいづくり 日常的にアートに触れる機会の創出	展覧会・イベント 黄金町春のバザール(企画展示、商店会連携企画など)/黄金町夏休み子どもバザール(ワークショップ、発表展示)/黄金町秋のバザール(国際AIR、イベント等)/黄金町冬のバザール(企画展示、イベント等) <目標>年間6企画 <目標>来場者数10,000人	[主催企画] ・Self Introduction -新しい黄金町のアーティストを紹介します-展(レジデンスアーティスト)(21日間/383人) ・夏休み子どもバザール2022(子ども向けWSと展示)(28日間/317人、WS参加者137人) ・黄金町国際AIRプログラム 2022 成果展「交流再来」(14日間/1,259人) ・レイモンド・ホラチェック展「The Vicious Cycle of Virtue -美徳の悪循環-」(14日間/365人) ・A Small, Good Thing -積み重ねることで生まれること-(15日間/314人) ・黄金町×光州AIR交換プログラム2022 韓国・光州広域市レジデンス報告会(55人) ・はつこひアソビバ大作戦!(横浜市立大学、神奈川大学との協働による子ども向けイベント)(60人) ・灯明ウォッチング(ヨルノヨ関連企画) ・横浜草枕プロジェクトII(昨年の展覧会を振り返りつつ、未来へつなげる展覧会)(9日間/157人) ・MAKE FRIENDS NOT ART: 屯してお喋りしましょう!(67名) ・Artist's Network FUKUOKA I・II(36日間/903名) ・安部泰輔ワークショップ(39日間/159名) ・DRAW DA DANSE(76名) ・黄金町×成都AIR交換プログラム2022 中国成都「Luxelakes A4 Art Museum」レジデンス報告会(68名)	主催企画の展示、イベント等への来場者数は4,386人。黄金町バザールを実施しなかったため、集客的には昨年より減っている。  サイトAギャラリーの活用が課題だったが、黄金町のアーティストの紹介、これまでの活動の振り返り、泉州市の紹介、また今後地方都市間とのネットワークづくりをテーマとした取り組みのスタートとしてFukuokaのアーティストを紹介する展示を企画した。  初めての試みとして、横浜市大鈴木先生、関東学院大照沼先生の協力を得て、夏休みイベントとして「夏休み子どもバザール」を開催、多くの参加者を得て、好評だった。		
	4	販路拡大	made in Koganecho 商店での作品展示/コミッションワーク/バザール/リサイクル企画制作/ウインドギャラリートーク/整備/オンラインショップ/運営	[講座開催回数] 通常講座:4講座(計73回) [延べ参加人数] 通常講座:272名 [講座例] 陶芸/編み物/美術講義	[実施内容] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganecho、オンラインショップでのグッズ・作品販売 ・ウインドギャラリートークプロジェクト ・ミューゼ・ド・ラボレーテ東戸塚店舗での作品委託販売 ・急急不動産のモデルルームへの作品販売・納品 ・急急不動産の新築マンション・エントランスへアーティストによる作品提案、設置	TV等の露出もあってギャラリーの売上はそれなりに伸びてきている。一方で黄金町アートブックバザール(書店)の方は、新刊書、古書の売り上げが伸び悩み、前年度より売上が減少傾向にある。	

2	地域、企業、大学、警察、行政、ボランティア等と連携した事業運営	1	地域団体、周辺施設等と連携した事業を実施できているか	のきさきアートフェア <目標>開催回数4回	2022年～4月1日(金)～3日(日)、9月18日(日)、11月13日(日) 3月26日(日) [来場者数] 延べ1,055人	のきさきアートフェアは、4月に黄金町アートブックバザールの店内で、9月、11月、3月は京急高架下のロックカクを新たな会場に、実施した。  黄金スタジオのシェアキッチンは、事業者が卒業して独立した店舗を持つという良い傾向がみられる。  京急百貨店とは強い協力関係があり、展示、ワークショップ等、今後も継続していきたい。 ロックカクでのイベントも、京急急行との連携により、円滑に進めている。  大学との連携については、これまで継続的に連携してきた横浜市立大学に加え、関東学院大学、横浜国立大学、神奈川大学などと新たに連携して事業を行った。  平戸桜木道路に面した元事務所、ステップ・スリーは地域との距離が近いので、立ち寄りやすい新拠点として活用されている。また独自のワークショップ等も実施している。	
				黄金キッチン、日ノ出スタジオ運用	[日ノ出スタジオ] ・黄金町アートブックバザール、gallery made in Koganechoの運営 [黄金スタジオ] ・シェアキッチンの運営(総事業者数 6者)		
				企業協賛の獲得、企業連携の取組	・無印良品 港南台バースでのワークショップと展示(6月) ・京急百貨店での展示(9～10月、12月) ・京急高架下ロックカクでのイベント開催 ・のきさきアートフェア、ヨルノヨ・灯明ウォッチング		
				大学との連携	・夏休み子どもバザール2022(横浜市立大学、関東学院大学) ・のきさきアートフェア(横浜市立大学、関東学院大学) ・はつこひアソビバ大作戦!(横浜市立大学、神奈川大学との協働による子ども向けイベント) ・はつこひ市場(横浜市立大学、横浜国立大学) ・横浜国立大学による「大学における文化芸術関連事業」への展示・WS会場の提供(秋・冬2回)		
				ステップ・スリー	旧事務所スペースを地域との交流拠点として運営 ・横浜市立大学学生による活動 ・地域の方々とアーティストの交流拠点 黄金町のレジデンスアーティストの作品制作に地域住民がボランティアとして参加、作品制作に使うリサイクル材の受付等 ・安部泰輔によるワークショップ ・アーティストによる子供向けWS ・ハロウィンソングパレード ・協議会部会の打合せ会場		
バザールサポーター	・のきさきアートフェアの運営サポート(受付、設営・撤収) ・かいだん広場メンテナンス(清掃、塗装作業) ・イベント等レポート記事作成(Facebook、Instagram)						
3	産業の振興や暮らしやすいまちづくりへの持続的な展開	1	地域を活性化させるエリアマネジメントが行えているか	エリアマネジメント検討 関係者との継続的な協議/マスタープランの提案		地域団体との関係においては、地域住民がより主体的に関われるように役割分担を見直した。例えばまちづくりニュースでは、これまで企画、取材、編集についてすべてNPOで行っていたものを、企画、取材、記事執筆を広報イベント部会員が行い、NPOは編集、デザインを担うこととした。 また、業務の一部を外委託し、スタッフの仕事量の軽減を図った。  地域、アーティスト、サポーターなどから黄金町バザールの開催を望む声を聞く機会が増えている。	協議会の業務をまちの人々と分担して行うなど、いい変化も見えてきたという点は、希望が持てる。引き続き期待したい。
				はつこひ市場開催支援	[実施内容] ・はつこひ市場 9月28日、11月13日、3月26日(計3回)		
				地域活動支援 大岡川水上劇場、運河パレード等の地域イベント支援/黄金町BASE支援/東小放課後キッズとの連携	・防災炊き出し訓練 ・黄金町BASE支援(かいだん広場活用) ・はつこひアソビバ大作戦(東小放課後キッズの参加)		
				初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会事務局運営 定例会運営/まちのルールづくり/防犯パトロール	・協議会役員会、定例会を隔月で開催 2023年秋の発足20周年記念事業へ向けた準備 ・まちづくり推進部会 地区計画策定に向けたアンケート実施 ・広報イベント部会 まちづくりニュースの発行 ・浄化推進部会 防犯パトロール、炊き出し訓練 ・地域商業推進部会 はつこひ市場開催、PR誌「はつこひさんぽ」発行		

総評	<p>各々の事業の充実度は評価されるものだが、各事業の実施がそれぞれ独立した事象に映り、相互の結びつきが見えない。従前からの指摘である、事業の幅広い整理が必要である。ディレクターの世代交代は大変なことだと思うが、持続可能な体制のために重要な視点であり、実現に向けしっかり取り組んでほしい。</p>	<p>【市の取り組むべき事項】</p> <p>事業の整理については、それぞれの事業の目的と、事業同士の関連性を含めた議論が横浜市を含めて必要である。</p>
----	--	--

これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体制に見合った事業の選択と集中が必要。初黄・日ノ出町エリアで行う必然性や差別化等の視点で精査すべき。</li> <li>・アーティストの受賞歴など、後年の活躍について可視化し、黄金町のAIRにおいてアーティストを育成してきた実績をよりアピールすべきである。AIRアーティストが黄金町を経験したから成長できたことをデータ化してほしい。</li> </ul>
	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症による社会情勢の変化により、様々な影響を受ける中で、リモートでの実施やオンライン販売など、様々な工夫・努力により事業を進めてきたことは評価したい。</li> <li>・一定の成果が上がる中で、次の10年間をどのようにやっていくのか、方向性を地域の施策として定めていく必要がある。その際に、これまで始めてこなかったテーマ(ex.食文化など)を新たな基軸として打ち出すことも検討してほしい。</li> </ul>
	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの着実な事業の実施により生み出した成果は高く評価できる。地元企業等との連携については、さらなる発展が期待できる。今後は、周辺地域との連携も意識し、パートナーを広げていけると良い。</li> <li>・アーティストインレジデンス事業は、日常の表現を支えるものと、バザールなどイベント系のもとのバランスよく実施できており、黄金町の特色を出せている。これまで培った海外とのネットワークを途切れさせないよう、オンライン等への展開など、柔軟な対応が望まれる。</li> <li>・黄金町の取組は世界的にもモデルケースになり得るので、しっかりと取組をアーカイブして発信すること、次の取組に生かしていくことを期待する。</li> </ul>
	H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで10年以上、着実に取組を継続してきたことで、収益面以外の成果(文化の耕し)が出ている。</li> <li>・レジデンスアーティストの海外での展示機会が増えているほか、卒業時には周辺物件を紹介する等、積極的な一貫した支援ができています。実際に周辺に残るアーティストが増加傾向にあることは高く評価できる。</li> <li>・多岐に渡る業務をこなしているが、マンパワーに見合った事業計画が、成果が出ているか、収支のバランスがとれているか、事業ごとに適宜振り返り、改善・整理していけると良い。</li> </ul>

# 令和4年度 事業評価シート

## 【基本情報】

拠点名称	文化芸術創造発信拠点 (BankART1929)	基本方針	(1) 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと (2) 他都市及び国際的なネットワークの構築 (3) さらなるBankARTの経済的な基盤の確立 (4) 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり
運営期間	平成30年度～令和6年度 (5年目／7年間)		
運営団体	特定非営利活動法人 BankART1929		

## 【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価		実施結果	評価	
評価軸			自己評価	委員会評価
1 経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	全体収入は1.3億円と例年並み。 収入のうちの横浜市補助金の割合は54%。 横浜市補助金以外で大きなものは、他の補助金、助成金関係(文化庁AFF600万、芸文200万、みなとみらい21トラスト350万)。ついでコーディネート事業収入(1,500万程度)。	Station、KAIKO2館の体制では、これまでコロナ禍の影響が大きくまともな活動ができておらず、今期は経済状況の読みに苦労した。 市補助金以外の補助金、助成金が複数取れたこと、横浜市文化観光局の他課の委託事業(東アジア文化都市、ヨルノヨ)や、周辺企業との連携(三井不動産、横浜ゲートタワー)、横浜文化賞の賞金など、予定外の事業や収入にも助けられた。 コーディネート事業収入は今期はあまり伸ばすことができなかった。	経済的な自立化を念頭に置いて事業を展開していく必要があり、作品の販売等も含めた取組を新たに開始したことは非常に重要なことで、評価できる。 課題は、BankARTらしさや横浜らしさ、なぞどこでやるのかなど、「創造都市横浜」とダイレクトにつながるコンセプトの構築。
	2 収入のうち、横浜市の補助金が占める比率			
	3 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等)の内訳と比率			
2 施設の維持管理状況	1 施設の管理状況	●BankART KAIKO ・シアオフィスの面積縮小＝倉庫スペース、展示面積の拡大 ・周囲の音問題はビルボード側に遮音の壁を仮設置 ●BankART Station ・雨漏り＝横浜高速鉄道手配の工事完了 ・手前空調の不具合(冬場に効かなくなる＝室外機室の高温化にともなうもの) ・エントランス周辺のしつらえについて(寒さ、暑さの対策と、入りやすさの兼ね合い) ・Wi-Fi工事、水道工事が課題。 ●安全対策、その他(両館共通) 防犯カメラの設置 施設内外での活動をカバーできる損害賠償保険への加入	●BankART KAIKO シェアオフィスの面積を縮小することで、定期収入が減少するため、全体に経済をもっとがんばらなければならない。今期はどうかクリア。 周囲の音問題で、ビルボード側は遮音のための壁を仮設置したが、今後どうするか課題。入り口側花屋のBGMは、KAIKO自体のメインエントランスを変えるなどの可能性を検討中。 ●BankART Station 雨漏りは横浜高速鉄道手配の工事でほぼなくなったが、まとまった雨が降ると、展示室内の雨樋から床の側溝に落ちる雨の音が響く。 エントランス周辺のしつらえについて、現在視認性や入りやすさを重視して入口を大きく開けているが、特に冬場は寒さを凌ぐのが難しい。エアーカーテンなども試してみたが効果はあまりなし。当面は冬場は扉を閉めて、ソフトで対応するしかなさそう。 Wi-Fiが脆弱なのを改善したいが、駅構内である関係で根本解決は難しい(光回線を引くのに600万)。また、水場が奥まった場所にあるためカフェの運営が難しく、手前出張して営業しているため、提供物が限られている。水場の工事も光回線同様、駅構内であるために高額で難しい。 上記を、なにがしかの国の補助金でクリアできないかと考えているが、日々の事業運営もあるため、実施には至っていない。	
	2 施設の修繕・改善状況			
	3 安全対策			
	4 その他			
3 運営体制・労務管理	1 スタッフの配置状況(役割・人数)・勤務体制・待遇	代表1名 副代表1名 プロジェクトマネージャー: 2名:A(総務、施工、管理)B(広報、経理、管理) アルバイトスタッフ10名(主にアーティスト系。受付、作品制作補助、施工など) 外部スタッフ:写真、デザイン、ウェブ、税務、労務	池田でさき後、常勤のスタッフ体制を強化した。ただし、昔これまでの仕事を並行している部分もあるため、フレックス的な働き方をしている部分もある。 施設の受付のような日常業務はアルバイトスタッフの自覚的な振る舞いによって保たれている。またそれらを管理するシステムも日々アップデートしている。 外部スタッフは長くBankARTと一緒に活動しているため、阿吽の呼吸で仕事を進めてくれるため、助かっている。 市民スタッフのような位置付けの、必要な作業を必要時に手伝ってもらえるような仕組みを組み上げたいと「これバカ」でも話題にあがったがまだ実現していないので、今後の課題である。	代表交代という体制変化に伴い、運営に関わる理念やあり方も変化する時機に来ている。 クリエイティビティを維持・向上させるため、各スタッフが持つネットワークを活用する方向で運営体制を強化したことは評価できる。 現時点では、これまでもBankARTに関わってきた思いのあるスタッフの力を感じるが、新たなスタッフも含め、将来的なモチベーションの源泉をどうやってつづていっていか課題。
	2 スタッフのスキルアップ、モチベーションアップ、ワークライフバランスのための取組			
4 広報・発信	1 先駆的な創造活動の国内外に向けた発信強化	メールニュース配信 2万アドレス Instagram、Facebook、TwitterなどのSNSでの発信の強化 新たなウェブの広報媒体のリサーチと情報提供 「池田修の横浜夢十夜」の出版 「池田修への手紙」特設サイトの運営	メールニュースは相変わらず、来館者や名利交換をした人々に安定的に情報配信をしている。 加えて、Instagram、Facebook、TwitterなどのSNSでの発信を強化することにより、こまめな情報発信をすることができた。そのかわり、通常のウェブサイトへのアクセスは少なくなっているようだ。また、ブログを更新することができていない。 コロナ禍を経て、各館のチラシやポスターの開架状況にも変化があり、月刊雑誌が季刊になるなど既存の情報メディアにも変化が現れている。情報の流れ方があきらかに変わっているのかわかる。今後も、必要な情報を必要な人に届けるにはどうすればいいかを引き続き模索していく必要がある。	年代によっても利用する広報媒体は異なるため、企画ごとにターゲットを考えた上で広報展開をしていかないと届けたい層に届かない。現在、BankARTは紙媒体からデジタルへ移行している段階で過渡期にあると感じる。 SNSの有用性はますます高まると予想されるが、メリハリをつけたメディアミックス・広報戦略を考えていく必要がある。
	2 各事業の効果的な広報活動・情報発信			
	3 創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
	4 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

II創造性/政策達成評価				評価		
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価	
1 地域及び周辺施設と連携しながら、新しい横浜文化を創造し、発信していくこと	1	アーティスト・クリエイターの育成支援や横浜への定住・定着を促すことを主な目的とした短期滞在型アーティスト・イン・レジデンス事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>□スタジオ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・20組、2ヶ月間の開催</li> <li>□横浜台北交流事業                   <ul style="list-style-type: none"> <li>開発好明氏が台北THAVIに、呉庭風(ウーティンフェン)氏がBankART Stationにて活動。それぞれ3ヶ月滞在、最後に成果発表展の開催。</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>コロナ禍の影響を受けず、通常のスタジオ事業、台北交流事業ともに開催できた。特に、台北交流は2年ぶりの交換AIRとなった。</p> <p>みなとみらい地区では、トラストの助成をうけて開催した「キング軸・アートテーブル」が、よい形で実現できたと思う。実際に近隣企業、組織と具体的な連携を組むことができた。またそこから派生し、次の連携事業へとも発展してきている。来年度以降も継続して、関係構築、事業協働をおこなってきたい。</p> <p>一方、「インディーズ2022」の18区展開は、今期はリサーチのみとなった。長期計画として捉え直し、新たに進行させたい。今期は主に神奈川区、ポートサイド地区+市場へのリサーチをおこなった。来年度の事業実現に向けて動きかけているところである。</p> <p>スクールや、CCM、新たに始めたPop-up Storeなど、多様な人々が多様な形で参加できるプログラムを増やしてきている。</p> <p>他の創造界隈拠点とは定期的に意見交換しており、今後トリエンナーレなどの時期にあわせて協働プログラムを行っていく予定である。</p>	<p>海外交流は、今年度はコロナ禍の不安定な状況を踏まえまだ抑えめだったと思う。来年度はBankARTとしての環境づくりをやっていく中で2023年度以降に向けた具体的な方向が見えてくることを期待する。</p> <p>カフェ事業は、BankARTの強みであるアートや横浜を感じてもらおうというコンセプトのもと、ビジネスとして成立させることをより強く目指してはどうか。</p>	
	2	横浜で活動するアーティスト・クリエイターや企業・事業者・市民等と連携した街の活性化に寄与する事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>□みなとみらい21地区全域にまたがるプログラム(提案中)</li> <li>□インディーズ2022(18区展開)</li> <li>□スクール事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・みなとみらい物語(周辺企業等を講師に招聘)</li> </ul> </li> <li>□カフェ・ショップ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェ:親しみのある空間構築</li> <li>・ショップ:通販システムの検討</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□カフェ・ショップ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・カフェ:親しみのある空間構築</li> <li>レイアウト変更、通路エリアへの拡張(季節の良い時期のみ)、新規家具の導入、メニューの更新</li> <li>・ショップ:通販システムの検討</li> <li>Baseを活用してのウェブショップ展開。多様な決済システムの導入。</li> <li>□ その他</li> <li>・「BankART Studio Theater」および「BankART KAIKO Pop-up Store」の開催(周辺アーティスト、クリエイター、企業との共同)</li> </ul> </li> </ul>	<p>DX推進という点でも、事業戦略の立て方も過渡期にきている。特にアート系は影響を受けやすい分野であり、今後考えていく必要がある。</p> <p>スクール事業、コーディネート事業、スタジオ事業は、BankARTが当初から実施してきたことだが、時間の経過に伴うニーズの変化も踏まえ、理念・コンセプトをいま一度点検して取り組んでほしい。</p>	
	3	本事業の成果発信及び最先端の文化芸術に市民が触れる機会の提供等を目的とした様々なプログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>□主催企画展               <ul style="list-style-type: none"> <li>・鷺見和紀郎氏、北島敬三氏、安土修三氏等の企画展の開催</li> <li>・UNDER35の開催</li> </ul> </li> <li>□コーディネート事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・YPAM、卒展、企業展など</li> </ul> </li> <li>□スクール事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間25講座開催</li> <li>・アーカイブ公開の本格的な推進</li> </ul> </li> <li>□コンテンツ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展のカタログ発行</li> <li>・オリジナルコンテンツ書籍発行</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□主催企画展               <ul style="list-style-type: none"> <li>・鷺見和紀郎、北島敬三、安土修三の企画展</li> <li>・Uder35 2組×4回=8組</li> </ul> </li> <li>□コーディネート事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・YPAM、卒展など</li> </ul> </li> <li>□スクール事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間8講座開催</li> <li>・アーカイブ公開(内部実験的に)</li> </ul> </li> <li>□コンテンツ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・各企画展カタログ発行:主催展3種、U35カタログ8種</li> <li>・オリジナルコンテンツ:「池田修の横浜夢十夜」「都市デザイン横浜(重版)」、中原佑介美術評論選集(2種)/現代企画室と共同出版)</li> </ul> </li> </ul>		
2 他都市及び国際的なネットワークの構築	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>□主催事業</li> <li>□横浜台北交流事業</li> <li>□その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□台北市との芸術家相互派遣プログラム               <ul style="list-style-type: none"> <li>・台北との交換AIRの実施</li> <li>□その他                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・BankART妻有のオープン(越後妻有大地の芸術祭)</li> <li>・大地のコレクション展への協力(越後妻有大地の芸術祭)</li> <li>・韓国光州「ピッコワル展」への作品供出/東アジア文化都市</li> <li>・韓国釜山「Young Artist Art Fair」作家推薦/釜山文化財団</li> <li>・「3331 Art Fair」への作家推薦/3331 Arts Chiyoda</li> <li>・視察受け入れ(視察リスト参照)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>コロナ禍の影響の大きかったこの分野も、徐々に回復傾向がみられる。台北との交換AIRが2年ぶりに再開したことは特に喜ばしい。</p> <p>海外や他都市との関係のコーディネイト事業や視察も少しずつ増えてきた。コロナ禍を経て、新しい地方プログラムも増えてきており、新たなネットワークの形成も期待できると思われる。</p>		
3 創造界隈クリエイターたちの誘致及びその経済的な構造の土俵づくり	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>□主催事業・スタジオ事業</li> <li>□コンテンツ事業</li> <li>□その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□主催事業・スタジオ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・UNDER35の開催</li> <li>・AIRの開催(オープンスタジオの開催)</li> </ul> </li> <li>□コンテンツ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・UNDER35 作家のカタログ制作サポート</li> <li>□その他                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・AIR参加アーティストの周辺への誘致</li> <li>・ショップの通販システムの検討</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>□主催事業・スタジオ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・Unde35の開催</li> <li>・AIRの開催(オープンスタジオの開催)</li> </ul> </li> <li>□コンテンツ事業               <ul style="list-style-type: none"> <li>・Under35 作家のカタログ制作サポート</li> <li>□その他                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・キング軸・アートテーブルの開催</li> <li>・BankART KAIKO Pop-up Storeの開催</li> <li>・BankART Station Theatreの開催</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<p>Stationの立地も多く企業が入ってきており、ビジネスとして考えるとそちらでもPop-up Storeを展開して良いのではないかと。</p> <p>先進的なものをどんどん出して、ほかとは違うことをやっているから、面白いから見に行こうというほうがむしろいい。</p>	
総評	<p>新しい体制の中で、元に戻る発想ではなく、次の時代を見据えた発想で事業を検討し取り組んでいることは評価できる。この2年間でBankARTのポジションとキーコンセプトを見極め、BankARTらしい創造活動をもう一回作り上げてほしい。これからの時代にあわせてどのような視点で活動していくのか。取捨選択をしっかりと柱を立てた上でさらに横の連携も図って、どのようにポジショニングを再構築していくか。未来志向で新機軸を打ち出してほしい。</p>			<p>【市の取り組むべき事項】</p> <p>創造都市施策の背景の中で、都心部活性化の一環としてキング軸も展開のフィールドにできるよう検討してほしい。</p> <p>補助金事業の中で販売収益事業をどう考えるかを、行政としても整理してほしい。</p>		
これまでの総評	R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に引き続きコロナの影響を受ける中、事業が実施できなくても継続性を保つような「耐える力」を発揮することで、集積したアーティストを引き続き支えることができている。</li> <li>・道路の使い方や企業等とのつながりなど、まちを開いていくためのチャレンジをプロセスを踏んで行ってきたことも評価できる。</li> <li>・BankART全体の運営を体制変更に伴い再構築していく中で、基本方針とのすり合わせが必要。</li> </ul>				
	R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍や施設再編など大きな変化があった中、一部実施できなかった事業もあるが、助成金の積極的な獲得や鉄道事業者との連携による駅舎の活用、海外からのリモートによる作品制作など、多様な取組やチャレンジにより多くの事業を実現できたことは評価できる。</li> <li>・みなとみらいの企業等との交流の定掛かりはできているので、キング軸形成のサポートや増加するアミューズメント・ミュージアム機能のつなぎ役を担うことも期待したい。</li> <li>・コロナ禍でデジタルシフトが促進されたことに鑑み、オンラインの活用にも力を入れ、リアルとオンラインの併用により、市民への情報発信や新たなファン層の獲得につなげていくことを期待する。</li> </ul>				
	R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分散型施設の本格的な運営初年度かつ、コロナも重なり非常に厳しい条件の中、施設の再編成に着手するなど、今後の安定した運営に向けた取組に尽力されている点が評価できる。</li> <li>・stationにおいて、鉄道会社、駅舎との協調や道路使用上での工夫がみられるほか、みなとみらいに立地する企業や学校との連携が着実にできており、様々な可能性を広げている点が高く評価できる。</li> <li>・客観的に推移・経年変化を把握できるよう、事業の内容や経費などをデータで蓄積し、今後の運営に生かすことを期待する。</li> <li>・リスクマネジメントの観点から、不慮の事態に備えた体制づくり、人材育成を進めていくことを期待する。</li> </ul>				
	H30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい拠点となって1年目であったが、移行期をうまく乗り越えた。新旧の街に分散して拠点を持つことになったことに対し、ソフト的な意味でのネットワークから各施設をどのように活用していくかまで、新しい可能性を含めて見えてきたことは評価できる。</li> <li>・Stationは横浜高速鉄道や道路局との調整の結果、よいスペースを作り上げることができた。事業についても、集客数が大きく落ちることはなかった。各拠点の特徴を生かした今後の展開に期待が持てる。</li> <li>・工事費・整備費等で予想外の支出があったものの、収支を合わせられたことは評価できる。</li> </ul>				

# 令和4年度 事業評価シート

## 【基本情報】

拠点名称	急な坂スタジオ	基本方針	①アーティストが作品を「つくる」支援と、その体制を「ととのえる」支援【サポートアーティスト制度の拡充】 ②次代を担う人材（アーティスト・観客双方）が出逢う場所【学びと交流を目的とした事業展開】 ③誰もが安心して使える稽古場【状況に応じて柔軟な利用を可能にすると同時に安定した稽古場経営の徹底】 ④新しいディレクターの育成【アーティストを支える人材の世代交代による、10年先を見通す新体制の確立】
運営期間	令和4年度～令和9年度（1年目／5年間）		
運営団体	特定非営利活動法人アートプラットフォーム		

## 【事業計画及び事業評価】

I 運営／経営評価			実施結果	評価	
評価軸				自己評価	委員会評価
1	経済的な基盤の確立	1 全体事業収支	収益:3,780万、費用:3,900万(概算)	少しずつ利用は戻りつつあるが、完全な回復には時間がかかるだろう。管理コストの見直しを図り、削減できるところは削減したものの、これ以上は難しい状況になっている。事業実施のために助成金を取得し、なるべく若い世代にゆとりのある創作・発表機会を提供できるように努めた。	クラスター等の感染発生を起こすことなく、施設のメンテナンスを進めてネット環境の向上を予定するなど、施設の運営・管理について細かな対応と工夫がみられ、よくやっている。助成金獲得など外部資金の導入も評価。
		2 横浜市の補助金以外の収入(助成金、協賛金、貸館収入等/その内訳と比率)	事業収益:600万、貸館収入:680万(概算) 横浜市の補助金:2,500万(横浜市補助金割合:約66%)		
		3 施設の管理運営に係る費用(管理運営費、人件費で事業に係る経費を除いたもの)に対する年間利用料金収入の割合	管理費:3,000万、利用収入の割合:23%		
2	施設の運営・管理	1 施設の利用状況(部屋別稼働率・延べ来館者数及び利用団体数)	ホール:87%、スタジオ1:61%、スタジオ2:51%、スタジオ3:36%、和室:34%、CR:20%、スタジオ4:43%、全体:47% 来館者:7,300人、団体:90(概算)	稽古期間中の関係者の感染やクラスターは起きていない。共有スペースでの注意事項も遵守してもらっている。建物自体の老朽化は進んでいるが、館内の日々のメンテナンスをしっかりとすることで、綺麗に保っている。来年度は館内のネット環境の新しい整備を実施予定。	ディレクターの交代を見据えた次年度以降の体制(常勤・非常勤等)について、早期に方向性を示していただきたい。
		2 施設の管理状況	消毒の徹底、共有スペースのレイアウトなどい注意を払っている		
		3 施設の修繕・改善状況	日々のメンテナンス(テープの張り替え)を徹底 LED化を進めた		
		4 安全対策・危機管理体制	防災訓練の実施(野毛山荘と共同)、緊急放送設備(緊急警報含む)のマニュアル化および使い方レクチャーをスタッフ全員に行った		
3	運営体制・労務管理	1 常勤スタッフ数と役割分担(職能)・勤務体制	ディレクター1名、非常勤2名(週2、3日):工事・問い合わせ対応 シフトスタッフ7名(10時から17時、15時から20時) 稽古場の提供、オンラインミーティングのための会場提供	利用状況に応じて、早めの閉館や臨時休館など、柔軟に対応している。(アルバイト代は支給) 急な体調不良や、家族の感染などがあつた際には休める体制を組んでいる。	大手メディアへの寄稿は、15年間の稽古場としての活動とディレクター交代について広く知ってもらい良い機会となり有意義だった。創造都市横浜のインタビューと併せてよい広報となった。アーカイブについても多くの人に有効な資産となるよう、引き続き進めていきたい。
		2 年間総支出に占める管理運営費、人件費の割合(常勤スタッフの報酬と待遇等)			
		3 スキルアップ・モチベーションアップのための取組状況			
4	広報・情報発信	1 各事業の効果的な広報活動・情報発信(利用者・市民に向けたものを含む)	舞台芸術だけでなく、子供向けイベントの情報サイトへの発信を実施(急な坂アトリエ) 創造都市横浜(ディレクターインタビュー)、朝日新聞「感飲劇」への寄稿 来年度以降の更新予定で、アーカイブ作成の準備に取り組んでいる	創造都市横浜のインタビューではコーディネーターとインタビューを急な坂スタジオの立ち上げスタッフが担った。これまでを知る人との共同作業で良い記事になった。稽古場という施設そのものが記事になることが少ない中、朝日新聞に寄稿する機会を得たことはとても大きな意味があった。	大手メディアへの寄稿は、15年間の稽古場としての活動とディレクター交代について広く知ってもらい良い機会となり有意義だった。創造都市横浜のインタビューと併せてよい広報となった。アーカイブについても多くの人に有効な資産となるよう、引き続き進めていきたい。
		2 市の施策に協力した創造都市横浜のPRにつながる広報活動・情報発信			
		3 事業のアーカイブの作成、発信(出版物、映像資料等)			

II創造性／政策達成評価				評価	
評価軸	評価の着眼点	事業計画(要旨)	実施結果	自己評価	委員会評価
1 舞台芸術を中心とした創造活動の場	1 創作の場の提供 すべての利用者にとって快適・安全で使いやすい借りやすい稽古場運営を行っているか	状況に応じた稼働率の設定・達成	昨年度よりは改善が見られるが、時期によって稼働率の差が大きい 来年度の動きが鈍く、新しい貸し方を検討する必要がある	2020、21年度に中止・延期になった公演やAFFの助成を得た公演なども多く、ホールの稼働率は高かったものの、年度末はかなり空きがあり、ここから数年は様々な使用形態に対応していくべきだと考えている。ハラスメントもどうしたら効果的な対策になるかをより慎重に検討すべきだと思う。	急な坂スタジオで稽古をした作品を、STスポットで発表するセット貸しなど、新しい貸し方を次年度検討しているとの事で、稼働率を上げるための工夫として機能するだけでなく、横浜市のリソースが横の連携をしながらアートを高めていくムーブメントにもなりうると期待している。
		新規広報媒体の検討	利用者向けLINEクーポンの発行		
		ハラスメント対策への取り組み	ナイーブな側面も含むので、より良い対策に関して検討を重ねている		
	2 創造活動への支援 快適な創作活動を行うために必要なサポートを行うことで、アーティスト達が育ち・続けていくための創造環境が整備されているか	サポートアーティスト	これまでのアーティストの卒業発表、根本しゅん平をホストとしたトークイベント、同様フォーマットで年度末に小尻健太で開催		
急な坂プロデュース		ヨルノヨ関連企画「ライト・ストーリーズ」「急な坂ショーケース」			
新規(若手)利用団体へのサポート		スタジオ4での楽器使用の可能性を検討するために若手団体に防音シートを貼った状態での貸出を実施			
人材育成プログラム(急な坂アトリエ、相談室plus)		急な坂アトリエ(対象:白昼夢)			
2 舞台芸術を中心とした創造活動に関わる人材の育成	1 アーティスト、観客、批評家など、様々な人材が集まり、学び、交流する場となっているか	ワークショップなど市民に開かれた取組	学校プログラム、「ライト・ストーリーズ」	立教大学のインターンシップがオンラインから対面になり、老松中学校の職業体験が再開した。また、複数の学生からインターンシップに関する問い合わせがあり、夏季に1名、年度末に1名受け入れる。館内でのイベントを行うことで、様々な人が訪れた。	ディレクター候補を選考するための要件と手続きについて事務局と協議している。現ディレクター業務である稽古場運営と企画業務のうち、企画部分を切り離し企画を担当するディレクターとして選考することも検討する必要がある。
		様々な人材が集まり、学び、交流する場として機能しているか	インターンシップ、職業体験の受け入れ		
		新たなディレクターを選考・育成し、次世代への継承を図れているか	選考中		

総評	稽古場運営を着実に進めつつ、急な坂プロデュースやショーケースなどの企画を変わらず進めてきているのは評価できる。ディレクター交代のことは、いい意味で注目されている。よき方向にいくように応援している。	【市の取り組むべき事項】 アーティストの活動拠点が都内に集中する現状で、横浜にこうした活動の場があることは非常に重要と感じるので、是非継続を願いたい。
----	--	--

これまでの総評	R3	・コロナ禍にあって、オンライン等も活用しつつ、小学校へのアーティスト派遣を無事に行えたことは評価できる。 ・レジデンスアーティスト、サポートアーティストが令和3年度で一旦全員卒業となったが、メンターとして寄り添いながら信頼関係を築いてきた点が評価できる。
	R2	新型コロナウイルス感染症対策を迫られる中での運営であったが、「ききみみ」などの新たな取組により稽古場としての活動以上の付加価値をつけている。アーティストの面でもきちんと内容を創り出している。首都圏を中心とした演劇界の中でつながっていると感じる。
	R1	・限られた予算と人員の中で多くの事業を丁寧に実施されている。若手の支援をはじめ、稽古場ならではの企画や、コロナで人を集められない中で状況に応じた企画ができていく点が評価できる。 ・子供向けプログラムについて、子供に関心があるアーティストと協力しながら企画を組み立てるなど、柔軟な発想で考えられるといい。急な坂らしい企画を期待する。
	H30	・新規事業を含め、ニーズを丁寧にすくいあげた企画運営・サポートができており、稽古場としては十分な運営ができていく。今後は、運営体制を十分に確保し、体験型プログラム等、市民の創造性を育むプログラムを増やせると良い。 ・相談室plusや新規サポートアーティストの応募数も増えており、着実に事業を運営している。 ・運営の継続性を意識し、現在の人件費が適正か、業務内容や業界水準を考慮し見直すべき。